



とぎのこえ Good News for Japan

春は、すぐそこまで



平成二十六年二月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

厳しい冬を過ぎて、春もすぐそこ。梅や桜の開花を待ちわびる季節になりました。昨年十二月の中頃、あるご婦人からお手紙をもらいました。そこには、

「思いがけず大病を患い、八カ月が経ちました。夫は、結婚式の『富める時も病めるときも変わらぬ』の誓い

のままに接してくれましたが、その優しさのために、夫まで体を壊してしまいました。自分たちにとつてこの冬はとても厳しいです」と書いてありました。

私も、七年前に、乳がん二度の手術と、抗がん剤治療による闘病を経験しました。四年前には息子を亡くして、食事も摂れず、何事も上の空で、立っていても宙に浮いているような感覚にとらわれ、「厳しい冬」の経験をしました。

誰も人生の冬は訪れてほしいと思いません。しかし私たちの人生は意のままにはなりません。冬の寒さに打ち震え、頭をうなだれてしまうようなことが何と多いことでしょうか。

「主よ、それでも あなたはわたしの盾、わたしの栄え、わたしの頭を高くあげてくださいる方」(詩編3編4節)

という聖書の言葉があります。イスラエルの王ダビデの歌です。その前の部分の一節には、

「主よ、わたしを苦しめる者は どこまで増えるのでしょうか」

とあります。ダビデは理想的な王であり、すぐれた武将でしたが、前王サウルに

たびたび命を狙われ、自分の息子アブサロムには反逆され、幾多の苦しみ、悩み、悲しみを経験して、彼の頭は何度も深くうなだれてしまいました。しかし、

「主に向かって声をあげれば、聖なる山から答えてくださいます」(5節)

とあるように、ダビデは神様に助けを祈り求め、神様はその都度ダビデのうなだれた頭をあげてくださいました。そのことを感謝して、先の言葉(4節)の告白となりました。そして、

「救いは主のもとにあります」(9節)

という確信になりました。

手紙をくださったご婦人は

「病気になる前とは百八十度、幸せのものさしが変わり、大変な中にも毎日小さな幸せに出合っています。この厳しい冬を乗り越えてこそ得られる春の訪れに希望をもちながら頑張っていました。皆様のたくさんのお祈りと励まし、見守りを感謝します」

と結んでおられました。

(救世軍士官(伝道者))

私にも厳しい冬、頭をうなだれることがたくさんありましたが、ダビデ王にされたように、神様はいつも私の頭をあげてくださいり、現在はとても平安な日々を過ごしております。

神様はあなたの頭もあげてくださいます。必ず春はやってきます！

最後に、『救世軍歌集』にある賛美歌の歌詞を紹介いたします。

「移りゆくときの間も 悩みに勝つ力 父より受けしわれは 心に恐れなし 愛に満てる御神は めぐみを日々与え 悩み苦しむときも 慰いと安き給う

悩み激しきときも 主の約束たのみ 安けく過ぎゆくため 主よみことば給え 疲れしときに助け み手にすがるわれを 常に導きたまえ 御国に入る日まで」

©救世軍歌集280番

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。
一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

〈信仰の体験談〉

「神様に頼る」ことができる喜び



加藤 美杏香



私が救世軍渋谷小隊（キリスト教会にあたる）に行ったのは、小学二年生の時です。日曜学校のイベントに参加したのが最初でした。それから、自分でも不思議なのですが、毎週、小隊に通うようになりました。小隊の信徒の皆さんが優しく温かく接してくださるのがとても嬉しく、日曜日は一日中、小隊の中で過ごしました。

私が生まれた家はキリストチャンホームではありませんが、小さい頃からずっとキリスト教会に通うことができたことは、神様の素晴らしいお恵みによるものだと思います。私が小隊に行つて何年か経つた頃、母と姉も一緒に礼拝に参加するようになりました。今では母も姉も救世軍の信徒です。神様が私を通して働いてくださったのだと思います。新約聖書の

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」（ヨハネによる福音書 15 章 16 節）という御言葉の「あなた」は、まさに私のことだと思いました。

思い返してみると、「キリストチャンになつたきつ

け」として多くのキリストチャンが挙げるような、大きな困難や、重大な事件、人間関係などの問題は、私にはなかったように思います。ただ「イエス様は、この私を救ってくださった」ということが自然と、「心に入つてくる」というよりは「沸き上がってくる」ような感じだつたように思います。この信仰の体験談を書くにあつて「信仰をもつてから心や生活にどのような変化があつたのか」について考えてみました。

キリストチャンになつた途端に嫌なことがなくなつたり、悩みが消えたりしたわけではありません。私の中には「劇的な変化」と言えるものはありませんでした。私が信仰をもつてから変わったこと、それは「神様に信頼し、依り頼むことができるようになった」ことです。

キリストチャンであつても、そうでなくても、私たちは思い悩んだり、困難にぶつかつたりします。そのような時、神様に頼ることができるといふことはとても感謝なことです。そして、この神様は生きて働かれる本当の神様です。私のすべてを（私以上に）知っていてくださる方です。神様は「早

く進め」と無理に引つ張つたり、後ろから押しつたりなさいません。ある時は先に立つて導き、後ろから支え、どうしても歩けない時には背負つてくださる方です。この神様に頼ることができるといふ喜びは、信仰をもつてからしか味わうことができないと思います。この喜びを知っている方は「うん、うん」とうなずいてくださるでしょうし、「それでホント？」と思う方には、早くこの喜びを知っていただきたいと思えます！

自分の歩みを振り返つた時、私は今まで当たり前だと思ひながら過ごしてきたことが、すべて神様の愛、お恵みによるものだと思ひがきました。健康に過ごせること、学校に通つて学ぶ



救世軍の日曜学校に通っていた頃(左から2人目)

ことができること、たくさんのお素晴らしい人に出会えたことなど、神様は数えきれないお恵みを私に与えてくださいました。その中でも一番大きなものは、神の独り子イエス様が私の罪のために十字架の上で死んだ後、復活して今も生きていてくださることです。私が救われたのは、一方的な神様のお恵みによるのです。神様は本当に私たちの思いを超えて働いてくださる方です。私は神様のお恵みにただ驚き、感謝するばかりです。

そして、この感謝は「献身」ということを考えるきっかけとなりました。私はたくさんのお恵みをいただいていたけれど、どうすればそのことに感謝を表すことができるだろうか、と考へた時、「自分のもてるものすべてを神様に献げよう」と思つたのです。また、ある時、〈神様に出会い、お恵みの中で生きている私であっても思い悩んでしまうことがあるのに、神様のことを知らない人は何を頼りにして生きているのだろう〉と考えました。きつと作り物の神であつたり、自分や他の人間であつたり、お金や財産であつたりすると思ひます。しかし、生きて働



TCU の学友と (右)

き、私たちの思いに込^こえてくださる神様はただお一人です。私は神様の恵みを、まだ知らない人に伝える者になりたいと思いました。具体的には、将来救世軍士官伝道者として働きたいと思っています。今まで私を用いてくださった神様が、これからどのように私を用いてくださるのか、とても楽しみです。

◆ 献身を決意したことで、私が今学んでいる東京基督教大学 (TCU) の神学部国際キリスト教学専攻に入学することになりました。学校での生活を少し紹介したいと思います。TCUでは入学の条件として「献身を考えているクリスチャン」ということが挙げられています。「献身」というと、牧師や伝道師、宣教師になること、教会にフルタイムで

勤めることかと思われませんが、ここで言う「献身」はそれだけにとどまりません。例えば海外で活躍するリーダーとして、企業で、福祉の現場で、地域社会で、家庭の中で……というように、どこでどのように「献身」するかどうかは人それぞれです。私は聖書のことやキリスト教のこと、神様が造られた世界のことなどを勉強しています。例を挙げますと、先学期までは「旧約聖書概論」「キリスト教史」といった授業を受けていましたが、今は「国際関係論」「平和学」「女性と社会」といった授業を受けています。全寮制の学校なので、寮生活を通して共同体として生きることや、聖書が言う「人を愛すること」の難^{むずか}しさを経験したり、喜びを感じたりしています。献身について考えている同年代あるいは人生の先輩のクリスチャンと共に生活し、学べることをとても嬉しく思います。チャペルで礼拝を献げる時、賛美をする時、友だちと一緒に祈る時、苦しみながら期末レポートを書く時……学校生活の様々な時に、私を導き、励ましてくださる力強い神様の存在を感じます。



シアトルでの伝道キャンプで (後列左)

◆ 昨年の夏、語学研修でアメリカのシアトルに四十日間行く機会が与えられました。中国や韓国、サウジアラビアといった様々な国から来た学生と同じクラスでの授業、初めてのホームステイといった慣れない環境での異文化体験は大変でしたが、とても楽しかったです。そこで感じたのは、どこにいても導いてくださる神様の存在です。ホームステイ先のご家族はクリスチャンホームで、教会に連れて行ってもらったり、一緒に祈りをしてもらったりしました。また、シアトルに留学している学生向けの伝道の働きがあり、キャンプや集会などのプログラムに参加させていただきました。そこで出会った同い年の子が

「まだイエス様についてや聖書についてはよくわからないけど、もっと知りた

い。私もイエス様を信じてみたい。美香ちゃんや他のTCU生に会ったからこんなふうに思えたのかも」と言ってくれました。私が何か特別なことを彼女にしたのではありません。ただ神様が私を用いて、働いてくださったのです。神様が用意してくださった素晴らしい出会いに感謝があふれます。

◆ 最近私の心に響いた聖書の御言葉を紹介したいと思います。それは、

「主は人の一步一步を定め 御旨^{みね}にかなう道を備えてくださる。人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていてくださる」 (詩編37編23、24節)

です。私の一步一步を定め、道を備えてくださるのは主 (神様) です。忙しい学校生活で疲れてしまい、倒れてしまうような時も、神様が手をとらえて守ってくださいることを信じます。

大学に入ってから自分自身の「救いの体験談」「献身の体験談」をしたり、他のクリスチャンの方の体験談を聞いたりする機会が多く与えられています。

「信仰の体験談は、聞いている側もしている側も恵ま



救世軍で成人のお祝いをした時、母 (左) と姉 (右) と共に

れるんですよ」と言われたことがあります。今、この体験談をお読みになられた方が、クリスチャンであるか、キリスト教のことをよく知らない方かはわかりませんが、皆さんに少しでも神様のお恵みを伝えられたら嬉しく思います。そして特に、(教会に行ってみたい) (神様のことや、聖書やキリスト教のことについて知りたい) と思っている方にとって、

あなたに伝えたい
聖書の言葉

主よ、御名を知る人はあなたに依り頼む。
あなたを尋ね求める人は見捨てられることがない。
旧約聖書詩編9編11節

主は貧しい人の苦しみを決して侮^{あな}れず、さげすまれません。
御顔を隠すことなく助けを求めると叫びを聞いてくださいます。
詩編22編25節

神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦^{とりで}。苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。わたしたちは決して恐れ
ない
地が姿を変え山々が揺らいで海の中に移るとも海の水が騒ぎ、沸き返りその高ぶるさまに山々が震えるとも。
詩編46編2〜4節

クリトリ

ご住所

ご氏名

□ 私の近くの救世軍を紹介してください。
□ キリスト教についてもっと知りたいです。
□ 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

裏
この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 勝地 次郎 (救世軍本営 東京都千代田区) <http://www.salvationarmy.or.jp>



世界をみつめて

〈フィリピン〉台風被災者支援

昨年 11 月 8 日、フィリピン中部を大型台風 30 号 (ハイエン) が襲い、甚大な被害をもたらしました。

救世軍の国際緊急支援チームは、災害発生後すぐ活動を開始し、食糧、日用品、衛生用品などを配布しました。また、医療チームは負傷者の手当てにあたりました。現地の救世軍は、支援活動のための調理、清掃、買い物などの補助要員を被災者の中から雇い、被災者自身が復興活動に従事できるようにしています。



救世軍は長期にわたる復興支援活動のために、他の NGO や現地の行政機関と協議を重ね、その第 1 ステップとして家屋の屋根葺きと野菜の種の配布プロジェクトをおこなっています。



〈シリア、ヨルダン〉難民支援

シリアでは、長引く内戦のため、難民が続々と周辺諸国に避難しています。ヨルダンにもたくさんの難民が入り、不自由な生活を強いられています。冬の時期を迎えて、救世軍は他の NGO グループの LWF と協同で、1500 を超える難民の家族を調査し、夫を亡くした母子や障がい者の家庭を優先的に、630 家族に防寒用物品——ガスヒーター、ガスボトルと補充用ボトルの引換券、カーペットと毛布、日用品や女性用衛生用品、子どもたちには洋服——を配布しました。これら配給品の保管場所として、ヨルダンの NGO グループが倉庫を提供しました。



〈日本〉東日本大震災被災地復興支援リポート(続)

被災地では、厳しい寒さの中、新しい年を迎えています。

昨年の 12 月には、クリスマス前後に北海道や関東東北のチームが、岩手県の陸前高田市や大船渡市の仮設住宅、障がい者支援施設を訪問しました。子どもたちへはお菓子の詰め合わせ、各世帯へはフェイスタオルやじゃがいもなどをプレゼントし、クリスマス会を開いてクリスマス音楽を届けました。また、「お茶っこ」や簡単な昼食作りを一緒にし、楽しい交流の時をもちました。



東京からは、福島県双葉町から郡山市へ避難をして、借り上げ住宅で生活をしている方々の自治会からの要請を受けて、クリスマス会(定例会)に参加しました。キャンティーンカーも出動し、集まった 100 人ほどの方にホットココアをサービス。クリスマスの飾りやお菓子、手書きのクリスマスカードを贈り、会食時には、BGM としてクリスマスの曲などをキーボードで生演奏をしました。



お菓子やホットココアをサービスしました



大晦日には、昨年に続き、大船渡市の永沢仮設住宅への訪問をおこないました。今回は、関東東北チームが中心となり、東京からのキャンティーンカーと共に出かけ、子ども会や「お茶っこ」をおこなうとともに各住宅を訪ねてシクラメンの鉢を届けるなどの交流をしました。



社会鍋募金へのご協力、ありがとうございました

2013 年 12 月 10 日～31 日まで、全国の主要都市でおこないました。東京地区では、銀座、渋谷、新宿、上野、池袋などでおこなわれた社会鍋募金に、12,713,664 円(当期募金額)が寄せられました。全国の募金結果は追って報告いたします。

皆様からのご献金は、東日本大震災など国内外の緊急災害支援活動や街頭生活者支援活動、保護家庭、母子家庭、一人暮らしの高齢者、作業所などへの支援に役立らせていただいています。



救世軍とは

The Salvation Army

プロテスタントのキリスト教会で、一八六五年に創立されました。本部はイギリスのロンドンにあり、現在、世界百二十六の国と地域で活動しています。

その特徴は、人々の必要に応える働きをおこないながら、神の愛を伝えていくことと、軍隊流の組織をとっていることです。



創立者のウィリアム・ブースは、その人の一番必要としているものを提供しない

で神の愛を伝えることはできない、と物心両面からの救いを目指しました。貧しい人々、悲惨な状況に置かれている女性や子ども、アルコールのために生活が破たんした人、災害などの

現在、日本では、四十五の小隊(教会にあたる)と十一の分隊(伝道所にあたる)、二十の社会福祉施設、二つの病院(ホスピス併設)での働きを通して、神の愛を伝えていきます。



被災者……その時々の人々の必要に答え、問題を解決するために、ブースは様々な働きを起しました。それらはどれも緊急を要するものであることから、迅速に実行に移せる軍隊流の組織をとったのです。

日本においても救世軍は、二〇一一年三月十一日の東日本大震災の時、発生翌日に被災地に支援物資をもって駆けつけました。以来、現地の関係機関と密に連絡をとり、また仮設住宅などにいる方々と交流を重ねながら、復興の度合いに応じて支援活動を継続しています。

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号一部五〇円(〒六〇〇円)
十五日号一部六〇円(〒六〇〇円)
クリスマス特集号(十二月一日号)一部一〇〇円(〒六八〇円)
一年分(二七〇円十送料七二八円)振替・〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍 代表者 勝地 次郎

編集人 齋藤 恵子

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 図書印刷株式会社